

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果（速報）

I 調査の概要

(1) 調査の目的

令和6年度から令和8年度までを計画期間とした第9期の計画策定に向け、地域課題を把握し、高齢者施策の基礎資料とするため、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』を実施しました。

(2) 調査の設計

調査対象者	要介護 1～5 以外の高齢者
抽出方法	無作為抽出
配布・回収方法	郵送による配布・回収
調査の期間対象	令和5年1月31日～令和5年3月24日

(3) 回収の結果

配布数	回収数	回収率
8,000	5,159	64.5%

(4) 報告書の見方

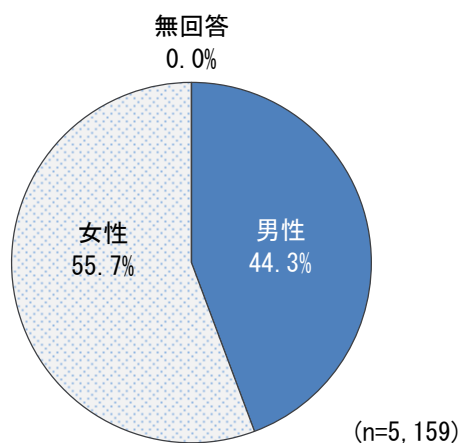
- 1 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点第二位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%とならない場合があります。
- 2 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えます。
- 3 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記しています。

Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別

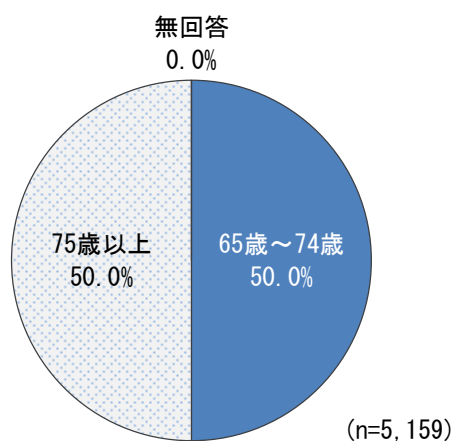
◆ 回答者の性別は男性が44.3%、女性が55.7%で、女性の割合がやや高くなっています。



	回答数	(%)
男性	2,285	44.3
女性	2,874	55.7
無回答	0	0.0

(2) 年代

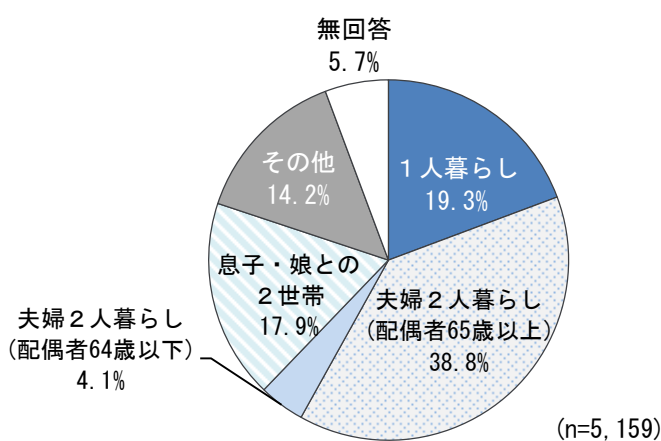
◆ 年齢は65歳～74歳、75歳以上ともに50.0%となっています。



	回答数	(%)
65歳～74歳	2,578	50.0
75歳以上	2,581	50.0
無回答	0	0.0

(3) 家族構成

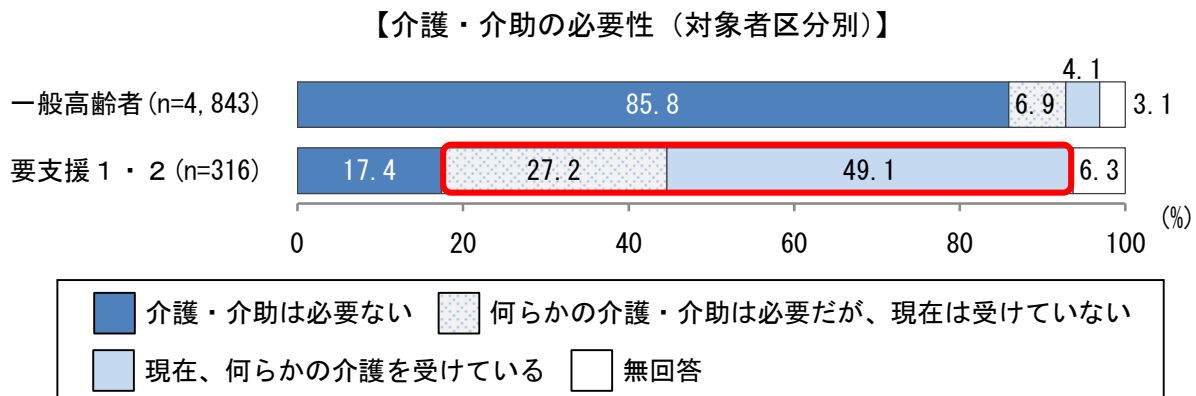
◆ 家族構成は1人暮らしが19.3%、夫婦2人暮らしが42.9%、息子・娘との2世帯が17.9%となっており、夫婦2人暮らしが最も高くなっています。



	回答数	(%)
1人暮らし	995	19.3
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	2,001	38.8
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	213	4.1
息子・娘との2世帯	921	17.9
その他	735	14.2
無回答	294	5.7

(4) 介護・介助の必要性

- ◆ 普段の生活で介護、介助の必要がある人は、要支援1・2では76.3%で、一般高齢者(11.0%)を65.3ポイント上回っています。



2 介護予防・健康

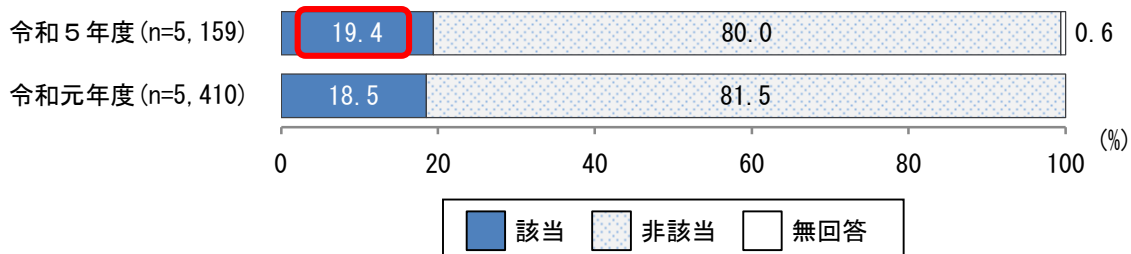
(1) 運動器機能の低下

問2-1～問2-5で下表の選択肢を3問以上回答した人が、運動器機能が低下している人に該当します。

設問		該当選択肢
問2-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか	3 できない
問2-2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか	3 できない
問2-3	15分位続けて歩いているか	3 できない
問2-4	過去1年間に転んだ経験があるか	1 何度もある 2 1度ある
問2-5	転倒に対する不安は大きいか	1 とても不安である 2 やや不安である

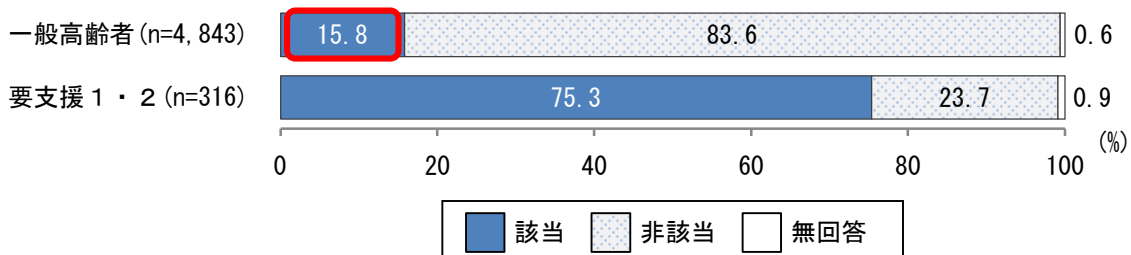
- ◆ 運動器機能が低下している人の割合は19.4%となっており、前回調査(18.5%)と大きな差はみられません。

【運動器機能の低下 (前回調査結果との比較)】



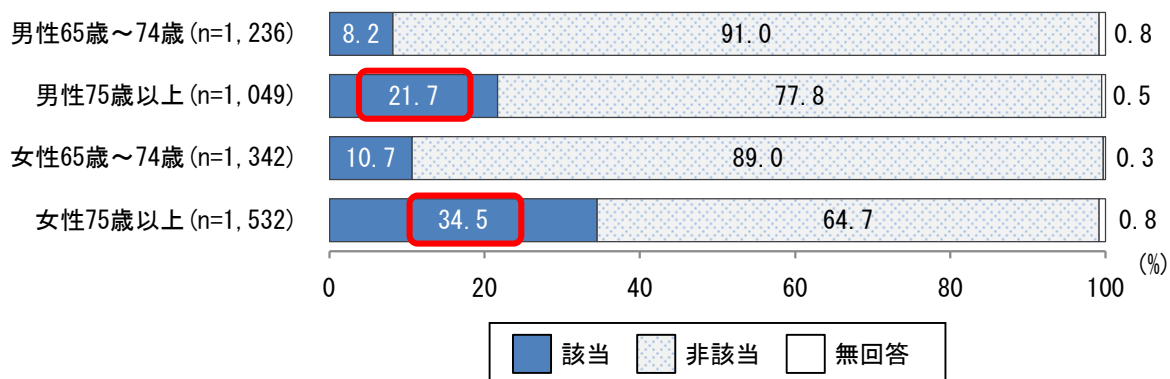
- ◆ 対象者区別にみると、要支援1・2では75.3%で、一般高齢者(15.8%)を59.5ポイント上回っています。

【運動器機能の低下 (対象者区分別)】



- ◆ 性・年齢別にみると、男性75歳以上で21.7%、女性75歳以上で34.5%と、男女ともに年齢が高いほど運動器機能が低下しています。

【運動器機能の低下（性・年齢別）】



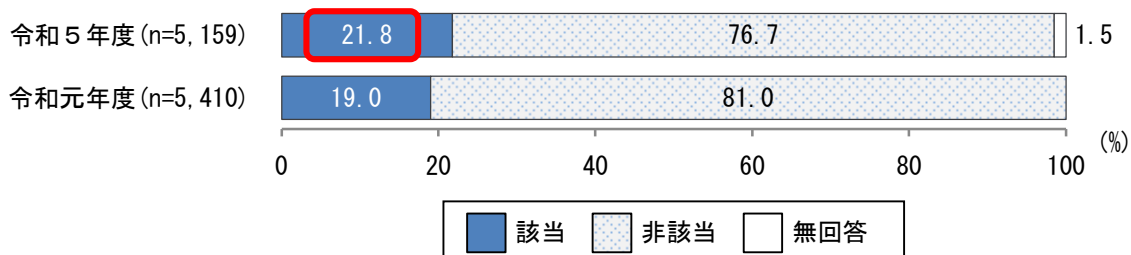
(2) 閉じこもり傾向

問2-6で下表の選択肢を回答した人が、閉じこもり傾向がある人に該当します。

設問	該当選択肢
問2-6 週に1回以上は外出しているか	1 ほとんど外出しない 2 週1回

- ◆ 閉じこもり傾向がある人の割合は21.8%となっており、前回調査(19.0%)と大きな差はみられません。
- ◆ 対象者区別にみると、要支援1・2では59.2%で、一般高齢者(19.4%)を39.8ポイント上回っています。
- ◆ 性・年齢別にみると、男性75歳以上で20.2%、女性75歳以上で38.6%と男女ともに年齢高いほど閉じこもり傾向があります。

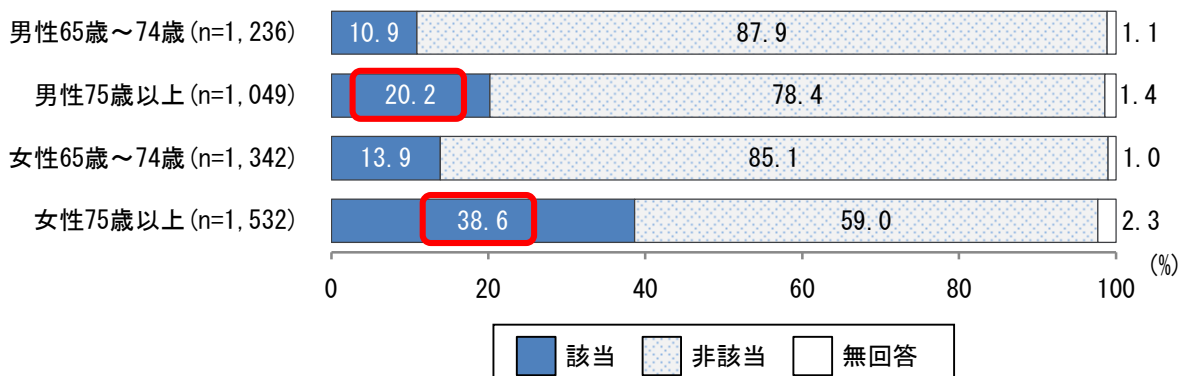
【閉じこもり傾向(前回調査結果との比較)】



【閉じこもり傾向(対象者区分別)】

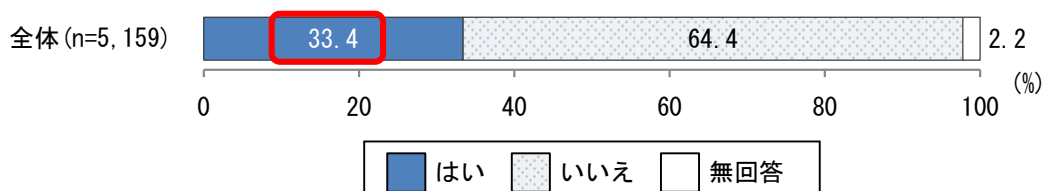


【閉じこもり傾向(性・年齢別)】

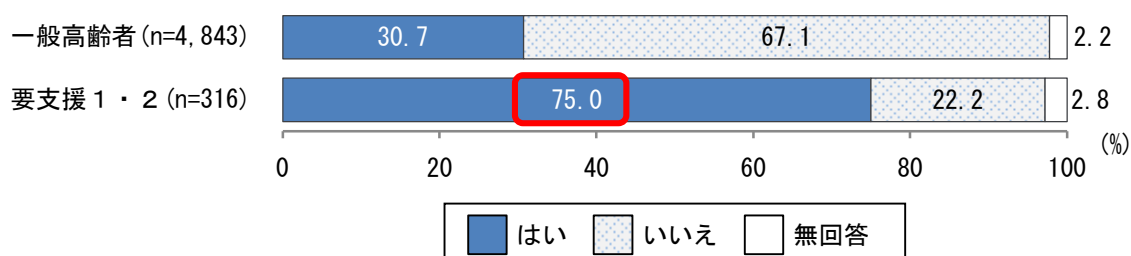


- ◆ 外出を控えている人の割合は、33.4%となっています。
- ◆ 対象者区分別にみると、要支援1・2では75.0%で、一般高齢者（30.7%）を44.3ポイント上回っています。
- ◆ 性・年齢別にみると、男女ともに年齢が高くなるほど外出を控える傾向があり、女性75歳以上で49.1%となっています。

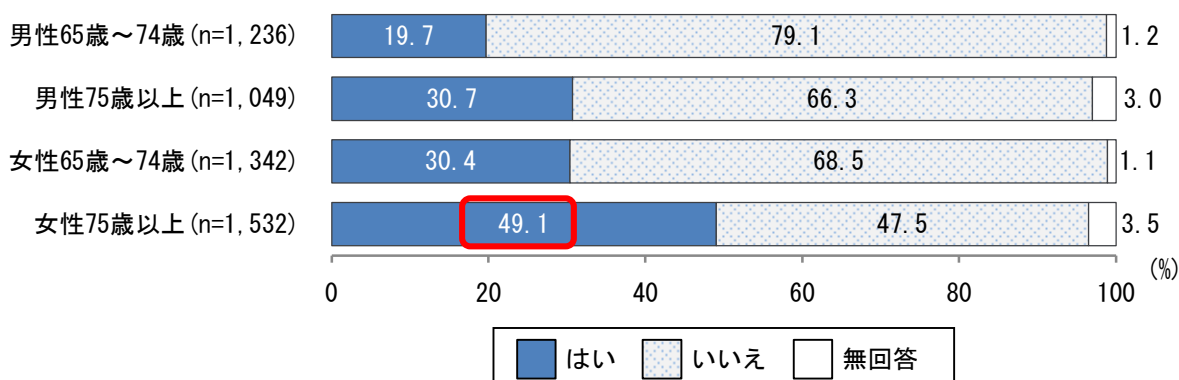
【外出を控えていることの有無】



【外出を控えていることの有無（対象者区分別）】

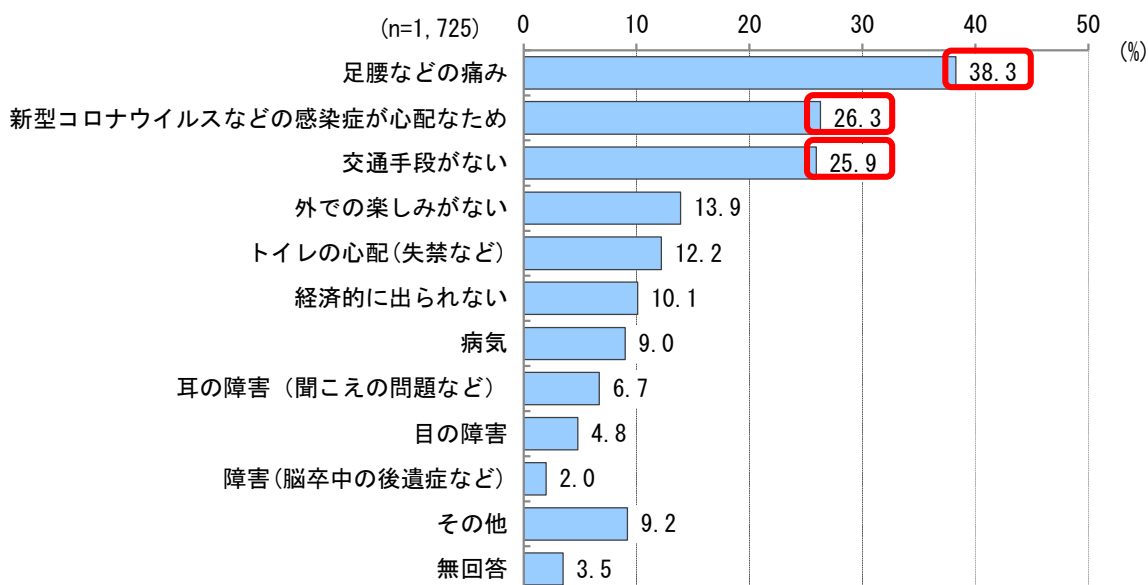


【外出を控えていることの有無（性・年齢別）】



- ◆ 外出を控えている理由では、「足腰などの痛み」との割合が38.3%と最も高く、次いで「新型コロナウイルスなどの感染症が心配なため」(26.3%)、「交通手段がない」(25.9%)などの順となっています。

【外出を控えている理由】



- ◆ 外出を控えている理由を性・年齢別にみると、「足腰などの痛み」との回答は男女ともに75歳以上で4割台半ばと高くなっています。また「新型コロナウイルスなどの感染症が心配なため」との回答は女性65歳～74歳以上で4割後半と高くなっています。

【外出を控えている理由(性・年齢別)(上位8位)】

	足腰などの痛み	新型コロナウイルスなどの感染症が心配なため	交通手段がない	外での楽しみがない	トイレの心配(失禁など)	経済的に出られない	病気	耳の障害(聞こえの問題など)
全体 n=1,725	38.3	26.3	25.9	13.9	12.2	10.1	9.0	6.7
男性 65歳～74歳 n=243	23.5	37.0	5.3	19.3	8.2	17.7	9.9	4.1
男性 75歳以上 n=322	45.0	14.6	26.1	16.5	18.9	9.0	12.7	11.8
女性 65歳～74歳 n=408	23.0	46.1	13.0	11.5	4.9	10.0	6.9	1.2
女性 75歳以上 n=752	48.4	17.0	39.4	12.2	14.6	8.1	8.2	8.4

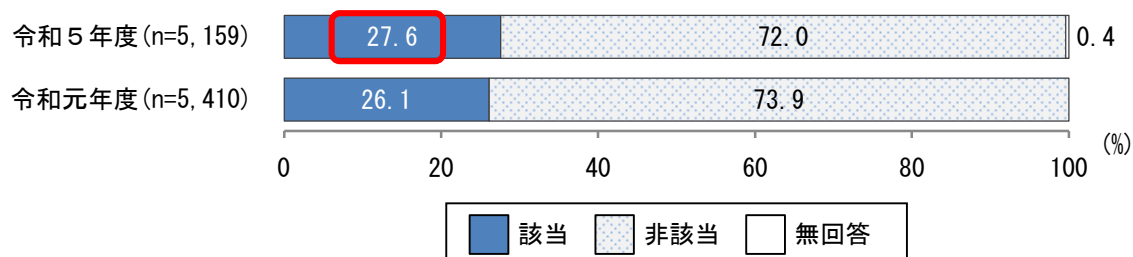
(3) 口腔機能の低下

問3-2～問3-4で下表の選択肢を2問以上回答した人が、口腔機能が低下している人に該当します。

設問		該当選択肢
問3-2	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	1 はい
問3-3	お茶や汁物等でむせることがあるか	1 はい
問3-4	口の渇きが気になるか	1 はい

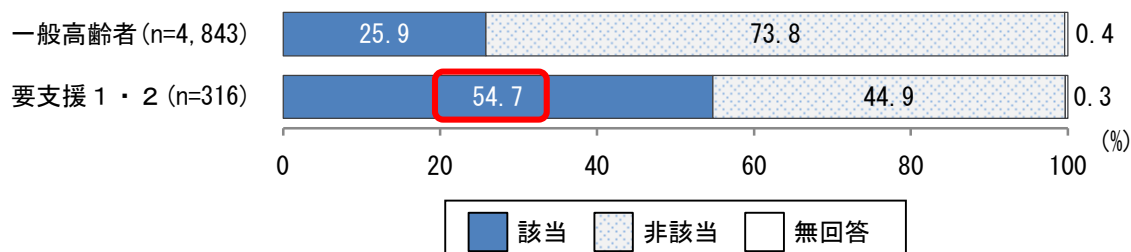
- ◆ 口腔機能が低下している人の割合は27.6%となっており、前回調査(26.1%)と大きな差はみられません。

【口腔機能の低下（前回調査結果との比較）】

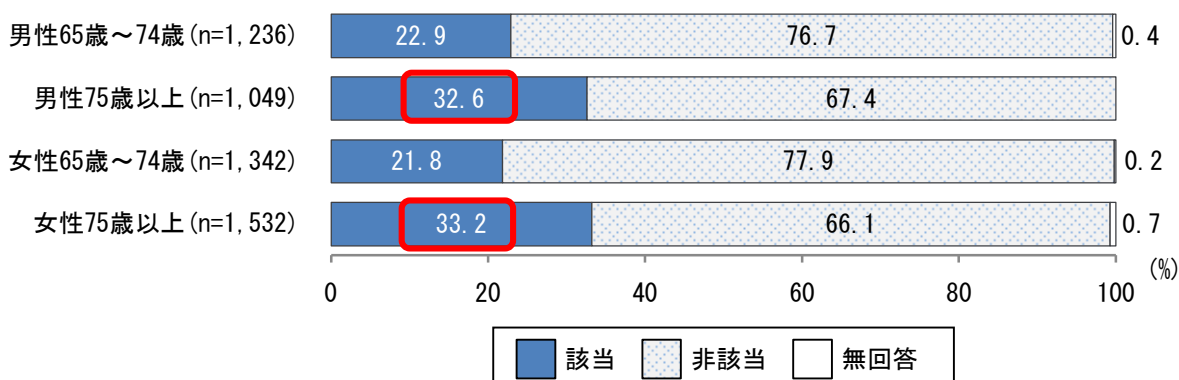


- ◆ 対象者区別にみると、要支援1・2では54.7%で、一般高齢者（25.9%）を28.8ポイント上回っています。
- ◆ 性・年齢別にみると、男性75歳以上で32.6%、女性75歳以上で33.2%と男女ともに年齢が高いほど口腔機能が低下しています。

【口腔機能の低下（対象者区分別）】

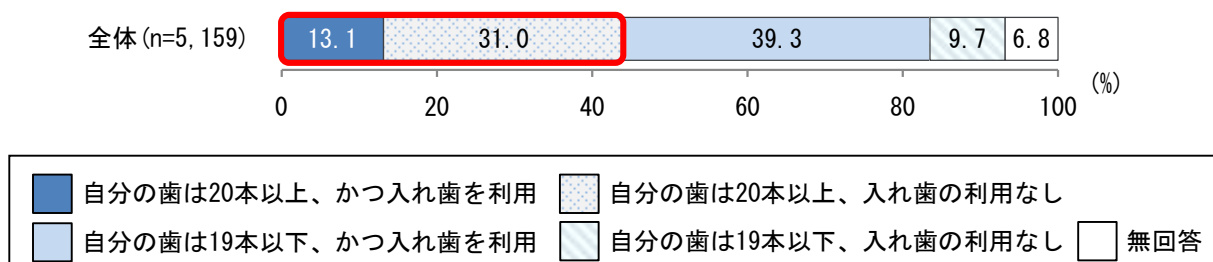


【口腔機能の低下（性・年齢別）】



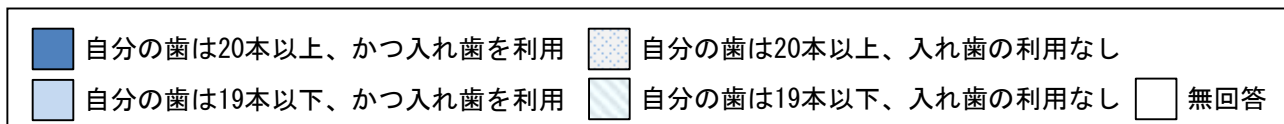
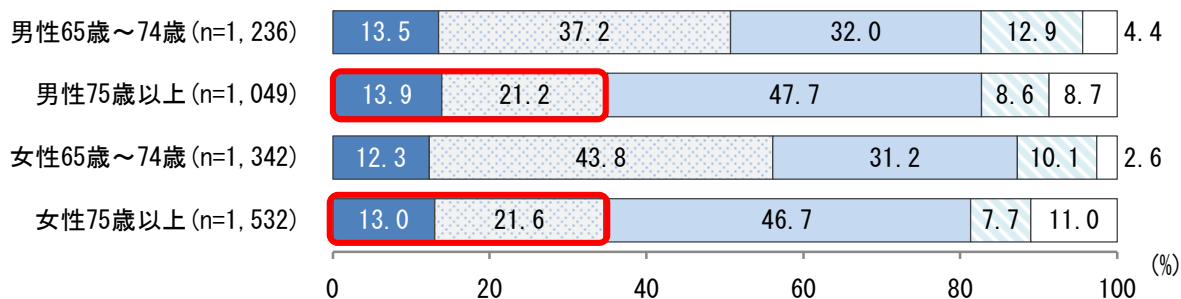
- ◆ 自分の歯が20本以上ある高齢者は、44.1%となっています。

【歯の数と入れ歯の利用状況】



- ◆ 性・年齢別にみると、自分の歯が20本以上ある高齢者は男性75歳以上で35.1%、女性75歳以上で34.6%と男女ともに年齢が高いほど自分の歯が20本以上ある高齢者の割合が低くなっています。

【歯の数と入れ歯の利用状況（性・年齢別）】



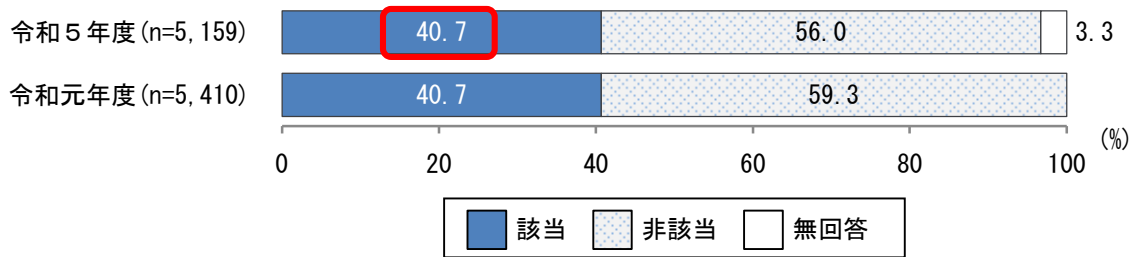
(4) うつ傾向

問7-3、問7-4の設問で、いずれか1つでも「1. はい」と回答された場合は、うつ傾向にある人と判断されます。

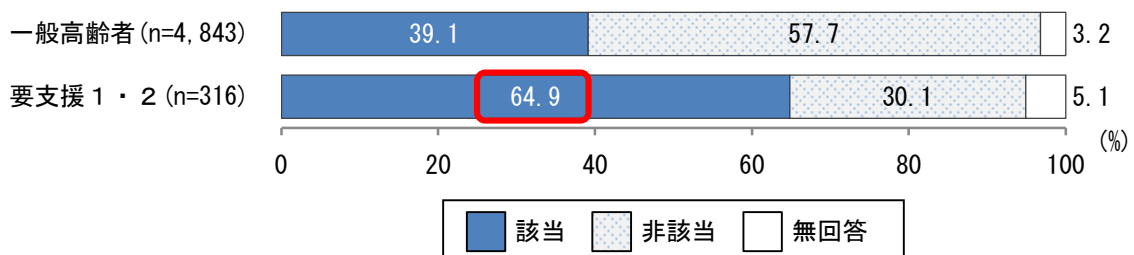
設問		該当選択肢
問7-3	1か月間に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか	1 はい
問7-4	1か月間に物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか	1 はい

- ◆ うつ傾向にある人の割合は40.7%となっており、前回調査（40.7%）と差はみられません。
- ◆ 対象者区分別にみると、要支援1・2では64.9%で、一般高齢者（39.1%）を25.8ポイント上回っています。

【うつ傾向（前回調査結果との比較）】



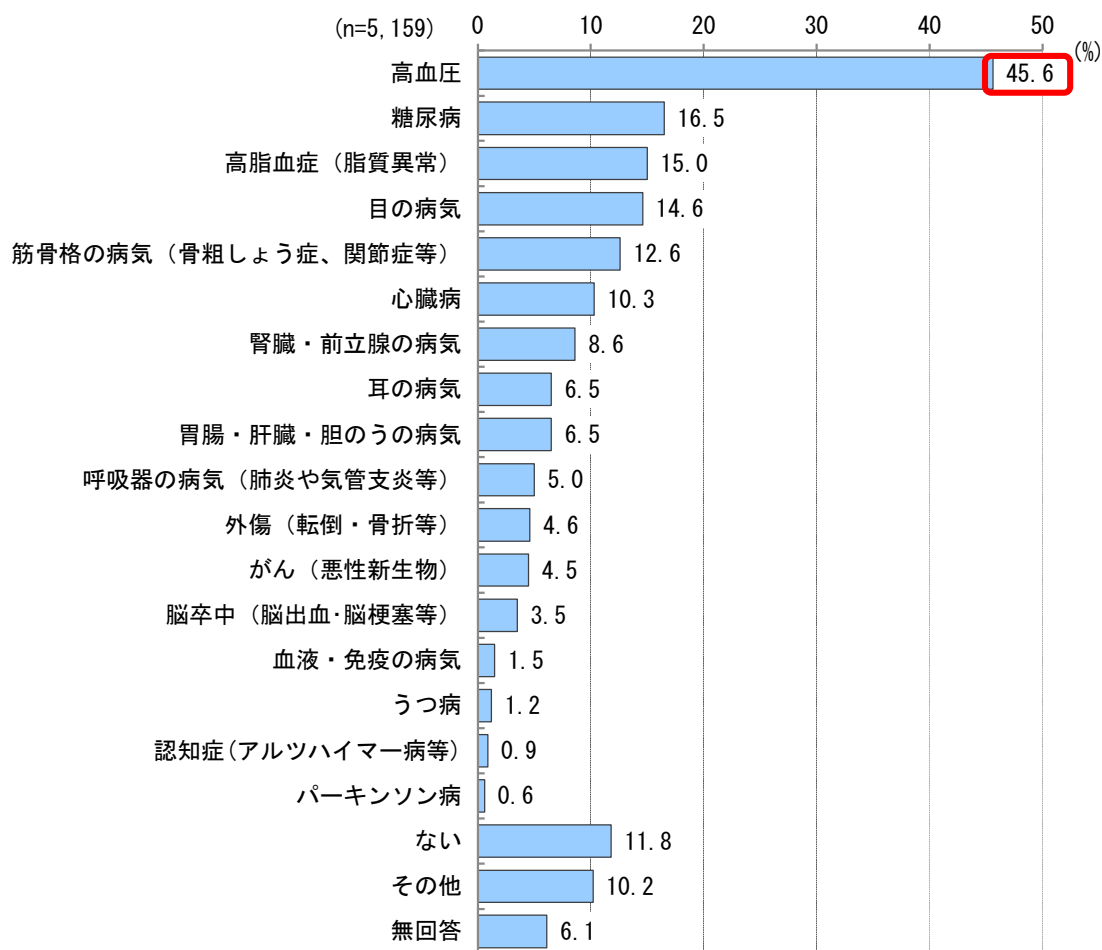
【うつ傾向（対象者区分別）】



(5) 健康

- ◆ 現在治療中、後遺症のある病気では「高血圧」が45.6%と最も高くなっており、「ない」と無回答を除く約8割の人が何らかの疾病があると回答しています。
- ◆ 何らかの疾病を持つ人を性・年齢別にみると、男性75歳以上では「糖尿病」、「腎臓・前立腺の病気」、女性65歳～74歳では「高脂血症（糖質異常）」、女性75歳以上では「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が他の層より高くなっています。

【現在治療中、または後遺症のある病気】

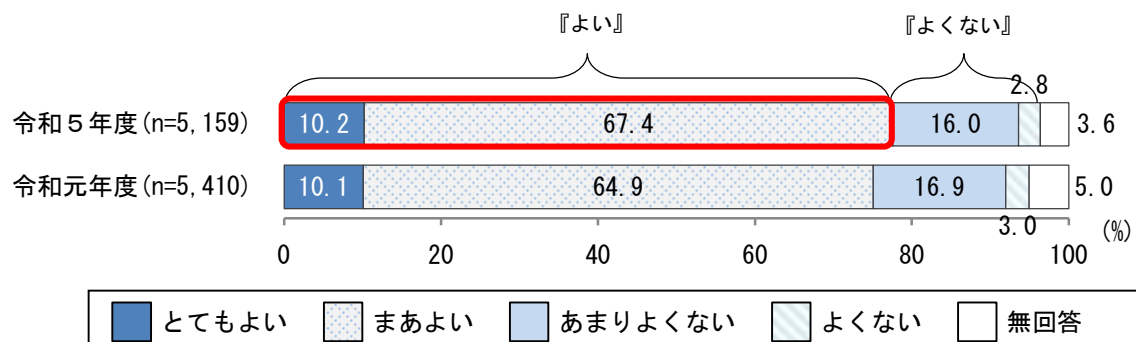


【現在治療中、または後遺症のある病気（性・年齢別）（上位8位）】

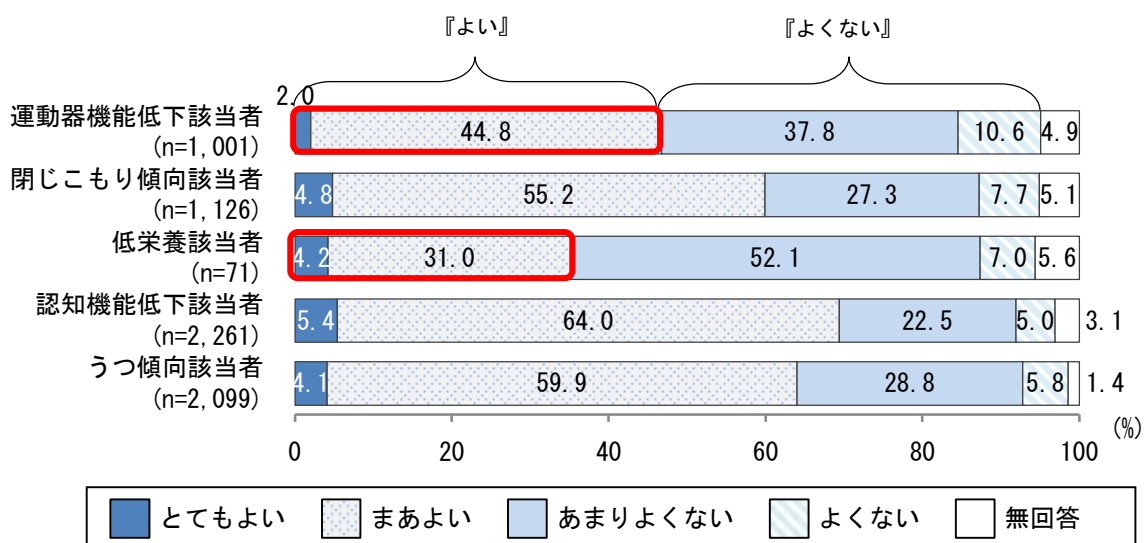
	高血圧	糖尿病	高脂血症（糖質異常）	目の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	心臓病	腎臓・前立腺の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気
全体 n= 5,159	45.6	16.5	15.0	14.6	12.6	10.3	8.6	6.5
男性 65歳～74歳 n= 1,236	45.5	19.5	13.4	10.4	4.0	9.2	12.2	5.8
男性 75歳以上 n= 1,049	49.7	21.7	8.2	18.8	5.9	17.2	21.7	8.3
女性 65歳～74歳 n= 1,342	37.3	12.1	21.2	11.5	13.9	4.5	1.7	4.9
女性 75歳以上 n= 1,532	50.1	14.4	15.5	17.8	23.1	11.5	2.7	7.0

- ◆ 現在の健康状態について、『よい』（「とてもよい」＋「まあよい」）と回答した人の割合は77.6%で前回調査（75.0%）と大きな差はみられません。
- ◆ リスク者別にみると、『よい』と回答した人の割合は「運動器機能低下該当者」、「低栄養該当者」で5割未満と低くなっています。

【現在の健康状態（前回調査結果との比較）】



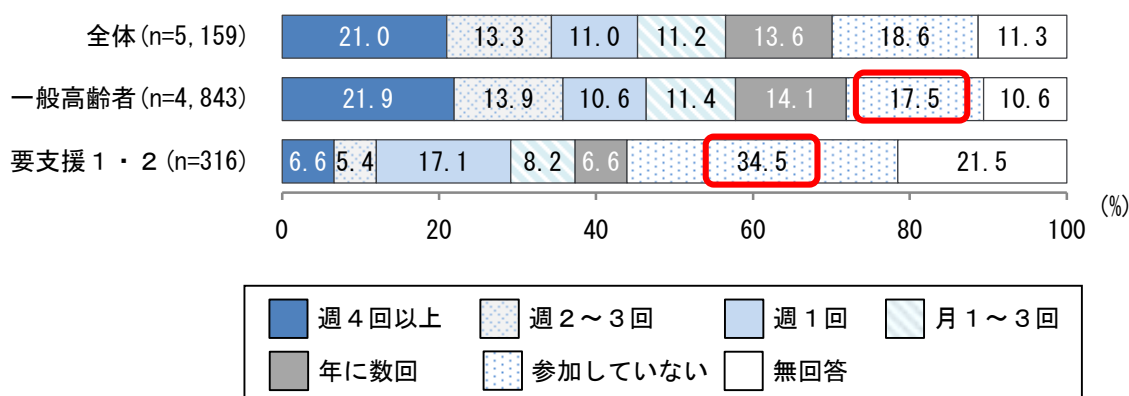
【現在の健康状態（リスク者別）】



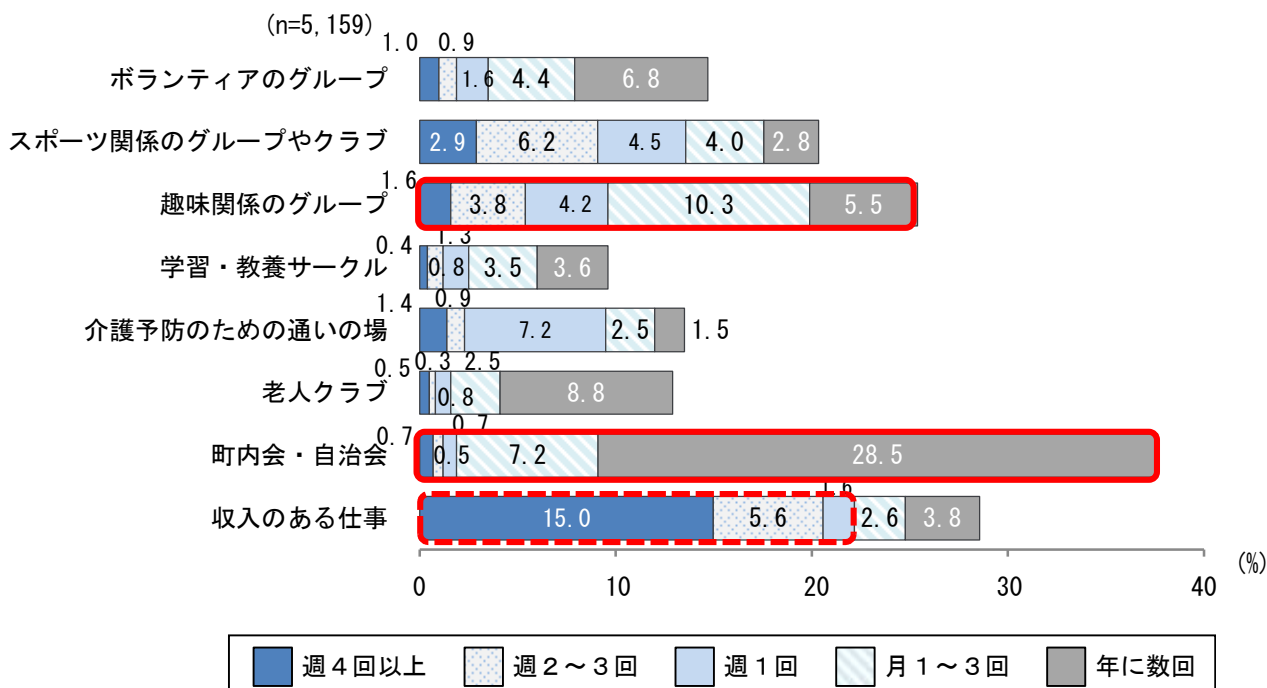
3 地域活動

- ◆ 地域活動への参加状況について対象者区別にみると、「参加していない」と回答した人の割合は要支援1・2では34.5%で、一般高齢者（17.5%）を17.0ポイント上回っています。
- ◆ 年に数回以上参加している地域活動では「趣味関係のグループ」、「町内会・自治会」が高くなっています。
- ◆ 週に1回以上参加している活動では「収入のある仕事」が高くなっています。

【地域活動（全活動）への参加状況（対象者区分別）】



【地域での活動への参加状況】



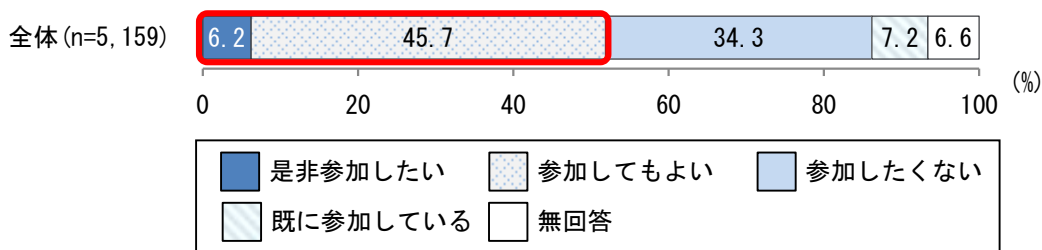
- ◆ 介護予防のための通いの場への参加状況を対象者区分別にみると、週に1回以上参加している人は要支援1・2では17.7%で、一般高齢者（9.0%）を8.7ポイント上回っています。

【介護予防のための通いの場への参加状況（対象者区分別）】

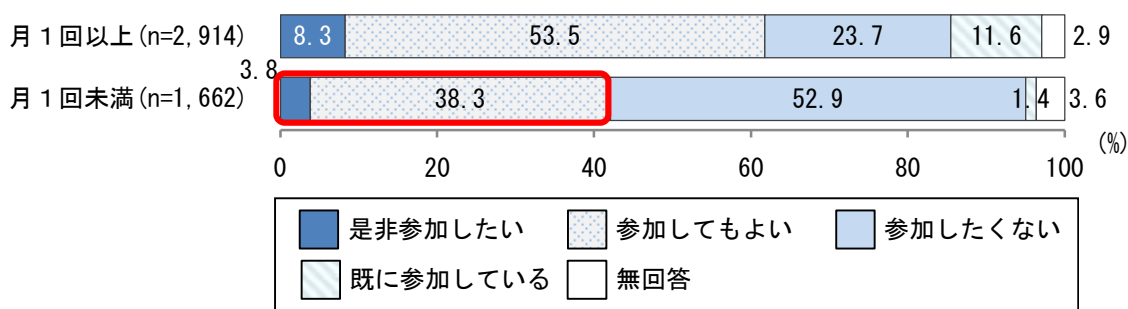


- ◆ 地域づくりの活動への参加者としての参加意向がある人は51.9%となっています。
- ◆ 地域活動への参加状況別にみると、参加意向がある人は参加頻度が低い人でも4割を超えています。

【地域づくりの活動への参加者としての参加意向】

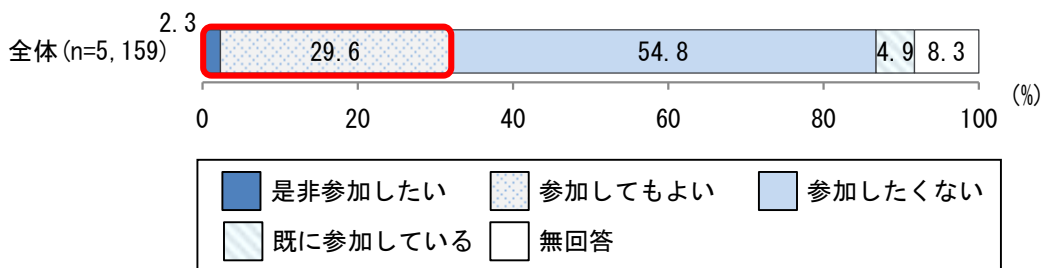


【地域づくりの活動への参加者としての参加意向（地域活動への参加状況別）】



- ◆ 企画・運営としての参加意向がある人は31.9%となっています。

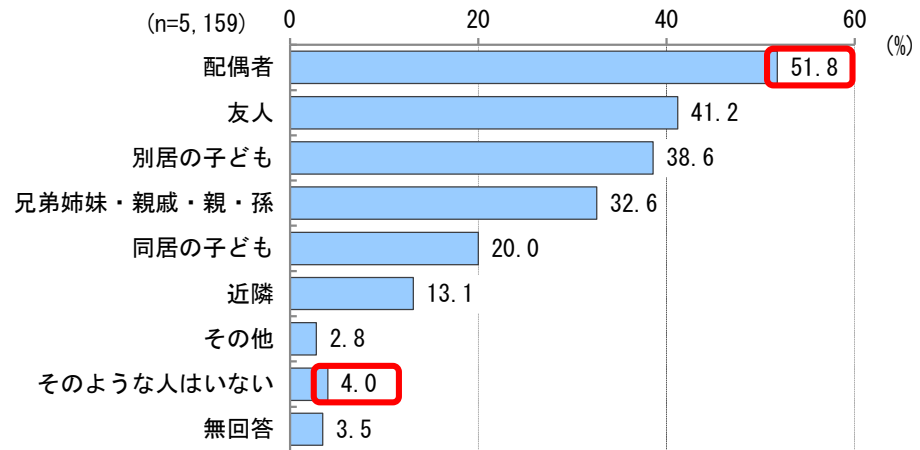
【地域づくりの活動への企画・運営としての参加意向】



4 相談・助け合い

- ◆ 心配事や愚痴を聞いてくれる人について、「配偶者」が51.8%と最も高くなっています。
- ◆ 性・家族構成別にみると、「聞いてくれる人はいない」人は全体では4.0%であるのに対し、男性1人暮らしでは17.4%と他の家族構成より高くなっています。

【心配事や愚痴を聞いてくれる人】

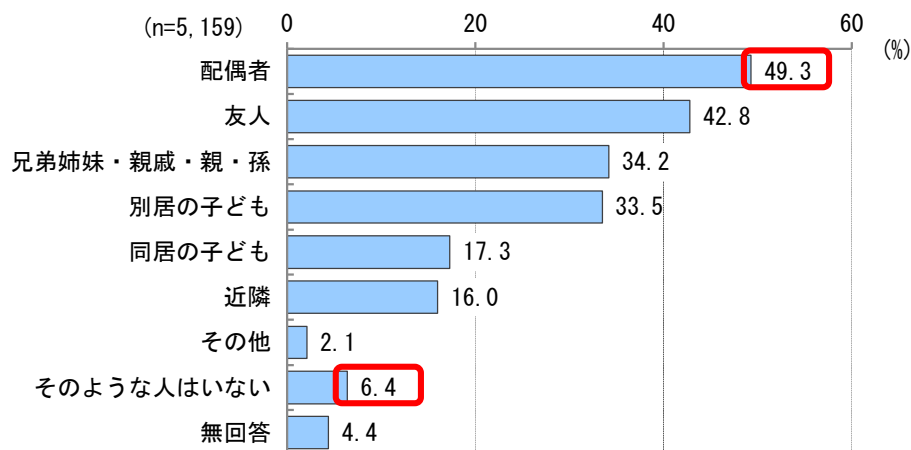


【心配事や愚痴を聞いてくれる人（性・家族構成別）】

		配偶者	友人	別居の子ども	親兄弟姉妹・親戚・孫	同居の子ども	近隣	その他	いそ その ような 人はい ない	無 回 答
全体 n= 5,159		51.8	41.2	38.6	32.6	20.0	13.1	2.8	4.0	3.5
男性	1人暮らし n= 298	6.0	38.3	30.9	31.5	1.0	11.4	4.7	17.4	4.4
	夫婦2人暮らし n= 1,192	84.5	25.7	32.6	21.2	3.7	8.6	1.9	3.9	2.6
	その他 n= 683	67.3	29.4	20.9	25.9	38.2	9.4	2.9	4.0	3.1
女性	1人暮らし n= 697	1.1	56.0	52.2	40.9	1.1	19.2	4.4	4.2	4.0
	夫婦2人暮らし n= 1,022	72.8	54.0	56.1	38.4	4.3	15.1	1.3	1.8	2.7
	その他 n= 973	34.3	47.6	36.7	40.4	58.5	15.3	3.3	2.0	2.9

- ◆ 看病や世話をしてくれる人においても「配偶者」が49.3%と最も高くなっています。
- ◆ 性・家族構成別にみると、「看病や世話をしてくれる人はいない」人は全体では6.4%であるのに対し、男性1人暮らしでは32.2%と他の家族構成より高くなっています。

【看病や世話をしてくれる人】

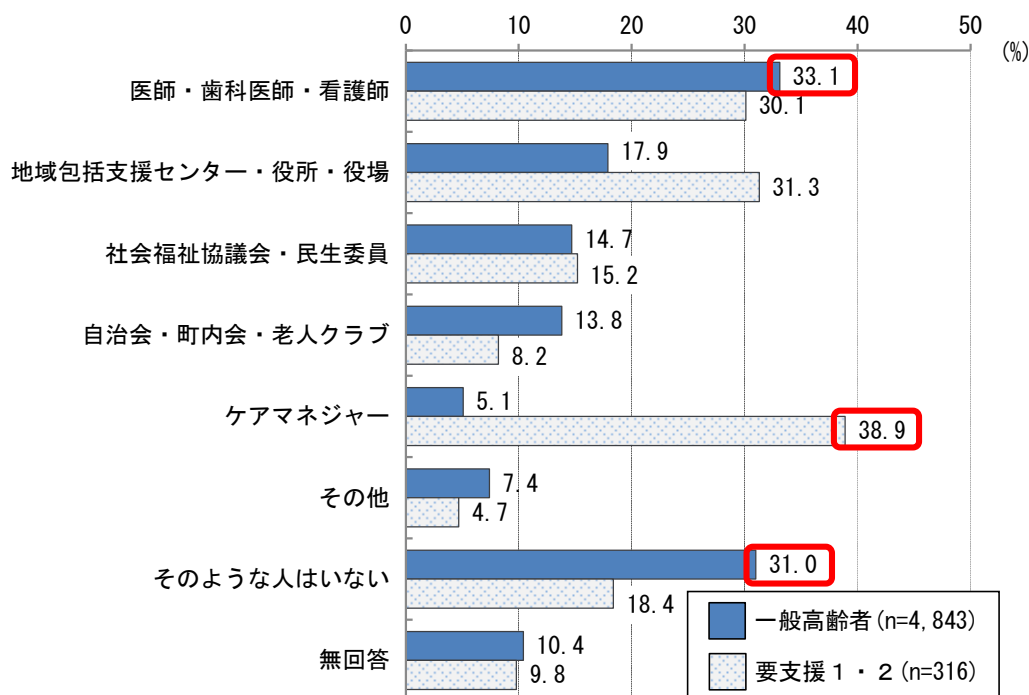


【看病や世話をしてくれる人（性・家族構成別）】

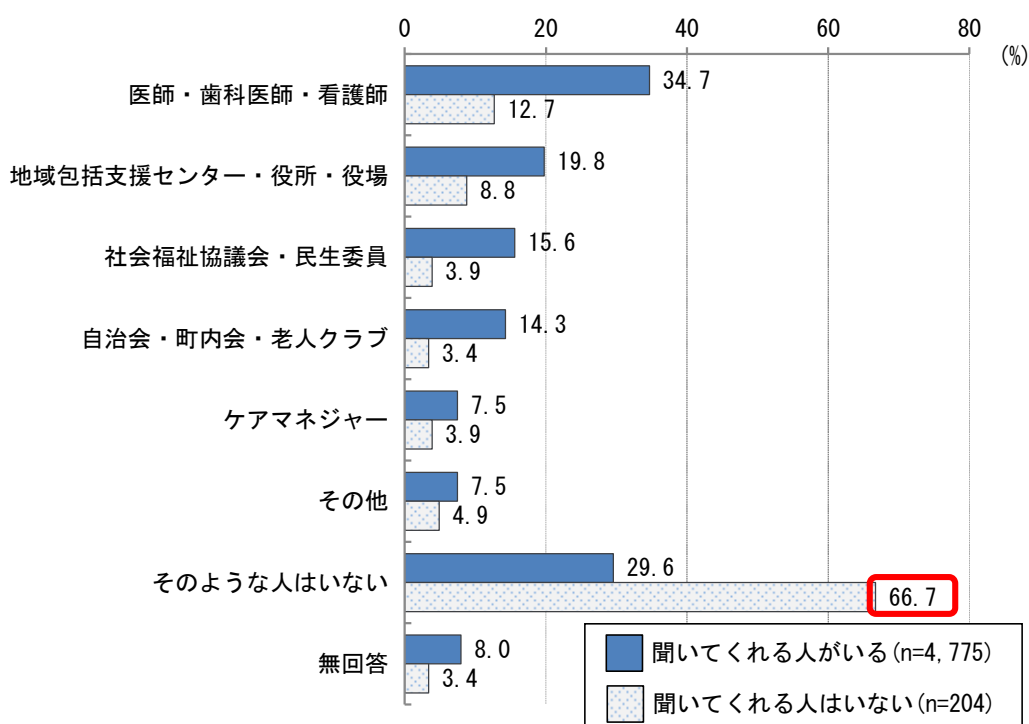
		配偶者	別居の子ども	同居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	友人	近隣	その他	いそのような人はいない	無回答
全体 n= 5,159		57.2	34.5	26.6	18.2	6.1	2.9	2.1	6.0	3.8
男性	1人暮らし n= 298	5.0	32.2	1.0	25.2	7.4	2.3	5.4	32.2	5.0
	夫婦2人暮らし n= 1,192	93.0	30.5	4.6	10.5	1.8	1.6	0.3	1.4	2.6
	その他 n= 683	72.8	18.6	53.0	16.3	1.6	1.0	1.9	2.6	2.6
女性	1人暮らし n= 697	1.3	52.7	1.7	27.7	18.8	9.3	3.6	16.2	5.2
	夫婦2人暮らし n= 1,022	81.5	46.4	5.2	18.6	6.9	3.2	1.1	2.6	3.6
	その他 n= 973	37.5	28.7	75.2	19.3	5.1	1.5	2.4	2.7	3.2

- ◆ 家族や友人・知人以外の相談相手について対象者区分別にみると、一般高齢者では「医師・歯科医師・看護師」、要支援1・2では「ケアマネジャー」との回答が高くなっています。また、一般高齢者では「そのような人はいない」と回答した人は31.0%となっており、要支援1・2（18.4%）を12.6ポイント上回っています。
- ◆ 自分の心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない人は、家族や友人・知人以外の相談相手においても「そのような人はいない」と回答した人が66.7%と高くなっています。

【家族や友人・知人以外の相談相手（対象者区分別）】



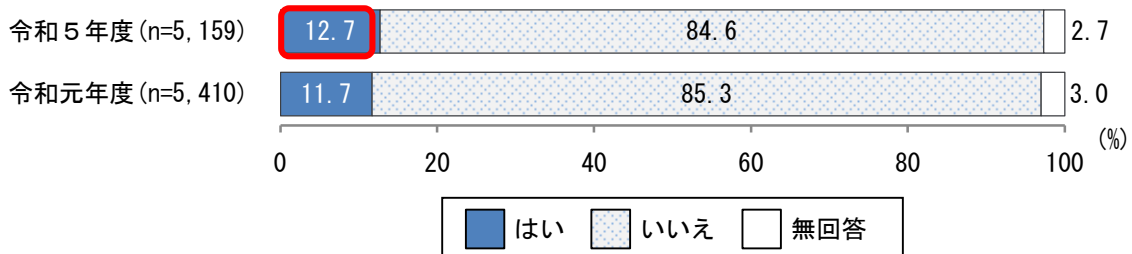
【家族や友人・知人以外の相談相手（心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無別）】



5 認知症への対応

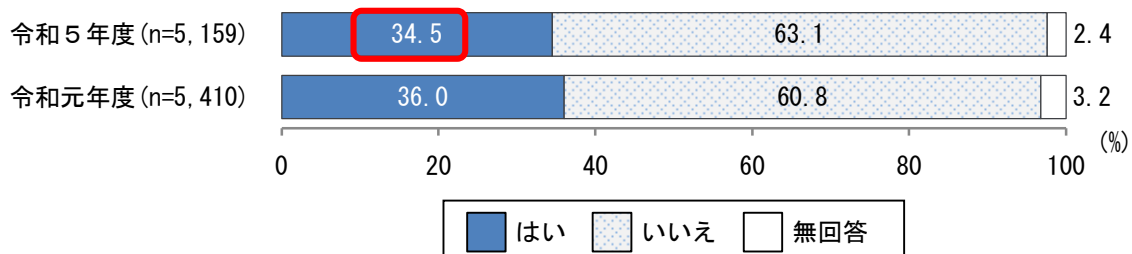
- ◆ 本人または家族で認知症の症状がある人の割合は12.7%となっており、前回調査（11.7%）と大きな差はみられません。

【本人または家族で認知症の症状がある人有無（前回調査結果との比較）】



- ◆ 認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は34.5%となっており、前回調査（36.0%）と大きな差はみられません。
- ◆ 本人または家族に認知症の症状がある人においても、認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は約半数となっています。

【認知症に関する相談窓口の認知度（前回調査結果との比較）】



【認知症に関する相談窓口の認知度（自分や家族に認知症の症状がある人の有無別）】

